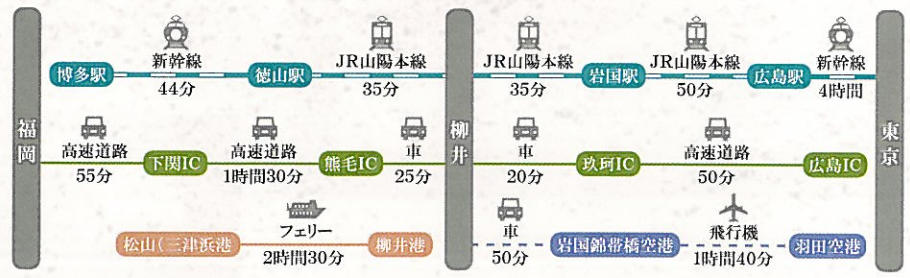




瀬戸内海の西部にある 小さな街、柳井

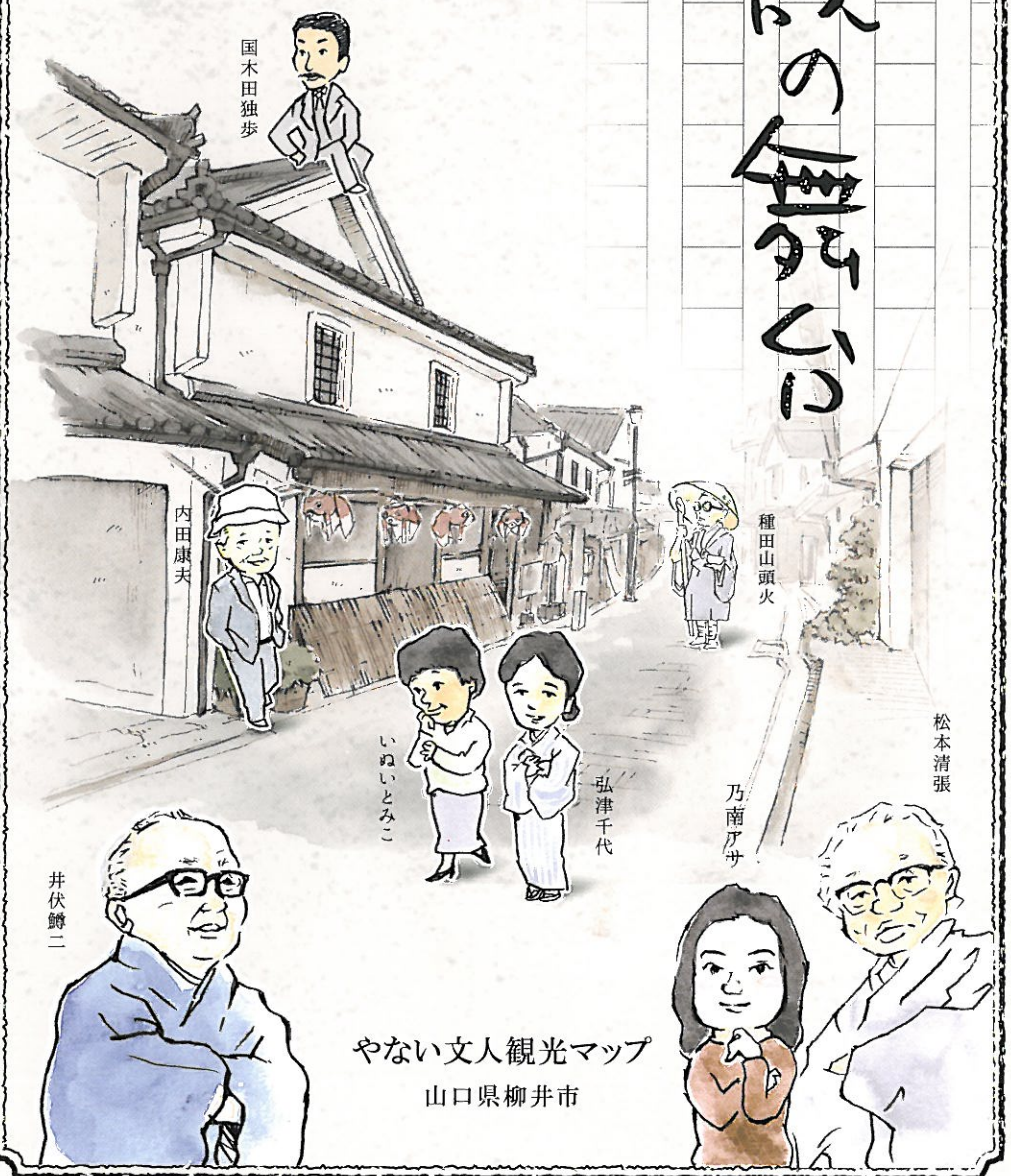
江戸時代、岩国藩のお納戸として
 繁栄した豪商の屋敷が並ぶ
 白壁の町並み。
 様々な文人が住まい、
 いくつもの小説の舞台となってきた。
 その軌跡を巡る旅に
 できませんか？

交通のご案内



発行/柳井市雇用創造協議会 所在地/山口県柳井市南町1丁目10-2 TEL/0820-24-0320

小説の舞臺



やない文人観光マップ
 山口県柳井市

やない文人観光マップ

トイレ P 駐車場 宿 宿泊 スイーツ お土産 金魚ちょうちん販売店 お食事処 喫茶

観光に関するお問い合わせ / 柳井



1 白壁ふれあい広場 (MAP 3-A)

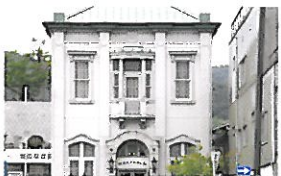
観光案内所があり、観光バス専用の駐車場を併設。松本清張文学碑が建つ。



2 しらかべ学遊館 (MAP 3-B)

民俗資料等を展示。奥の学習室に国木田独歩の日記が展示されている。

●休館日 / 火曜



3 町並み資料館 & 独歩胸像 (MAP 2-D)

明治40年築の県内最古の銀行建築。山岡鉄舟の書がある。

●休館日 / 月曜・木曜



独歩が柳井で最初に住んだ借家があったところ。「山林自由存す」は独歩直筆の拓本。



歩くほど味わい深い町並みを、文人の面影を偲びながらゆっくり散策しませんか。

ゆっくり散策コース <所要時間: 約120分>
 いいとこどりコース <所要時間: 約60分>

1 白壁ふれあい広場 (MAP 3-A)

2 しらかべ学遊館 (MAP 3-B)

3 町並み資料館 (MAP 2-D)

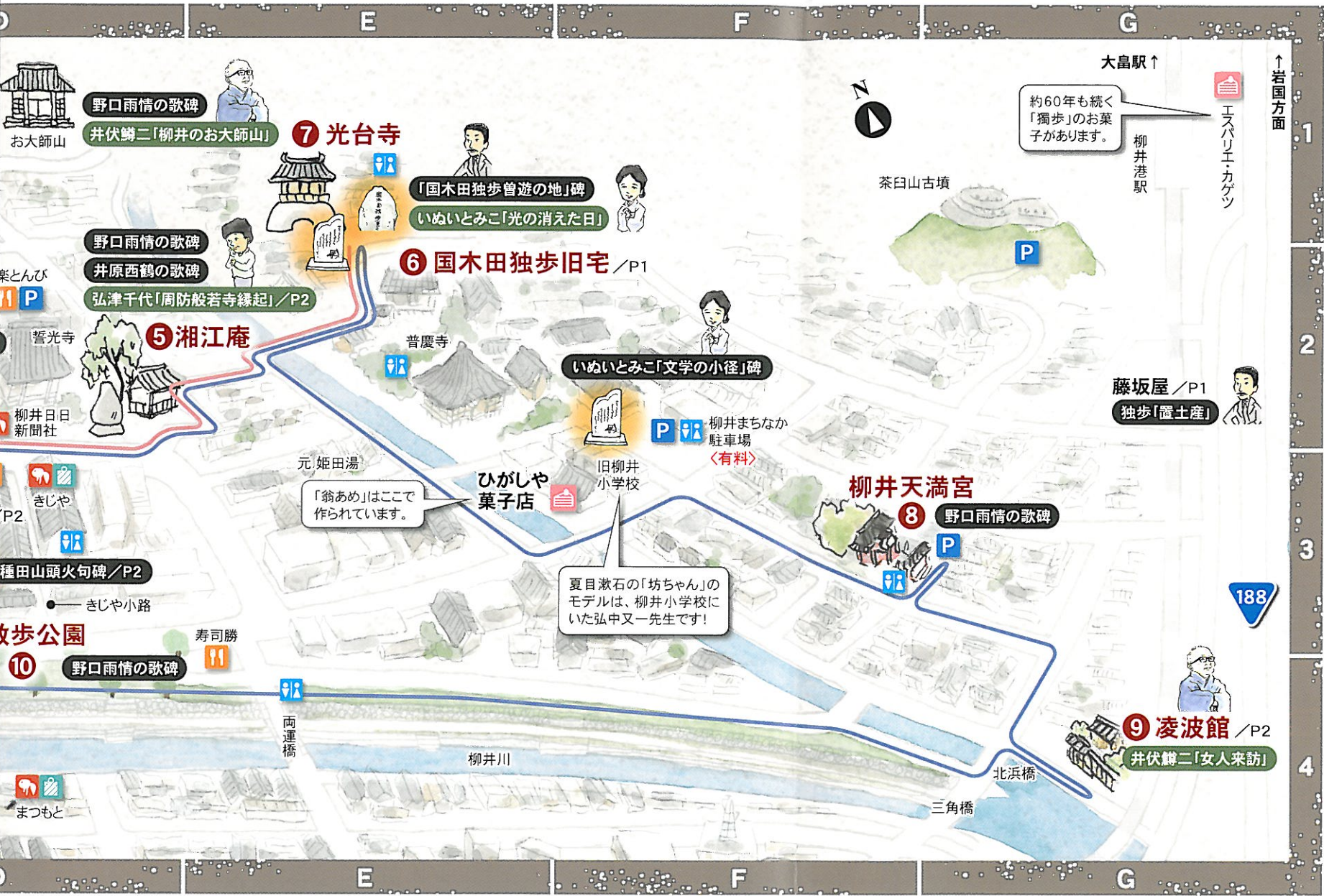
4 むろやの園 (MAP 3)

徒歩8分

徒歩2分

徒歩4分

すぐ



4 むろやの園
(MAP 3-D)
江戸時代の西日本屈指の商家。現存しているものは日本最大級。山頭火直筆の句碑が建つ。
●休日/水曜



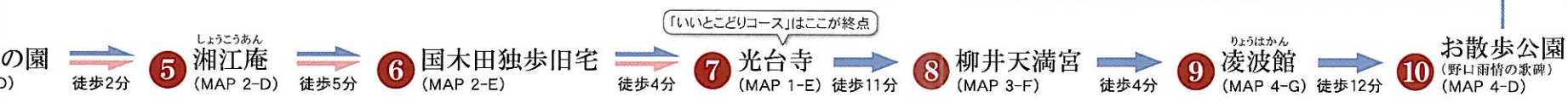
5 柳と井戸 (柳と井戸)
(MAP 2-D)
柳井の地名発祥の地。井原西鶴と野口雨情が柳井を詠んだ歌碑が建つ。



7 光台寺&「国木田独歩曾遊の地」碑
(MAP 1-E)
楼門の下で手を叩くと「ワンワン」と反響する。独歩がよく散歩していたところ。



ここで「少年の悲哀」のモデルとなった娼婦と出会う。



心のふる里

生涯、全国を転々とし、故郷を持たなかった独歩が唯一「ふる里」と作品に書き記した地。

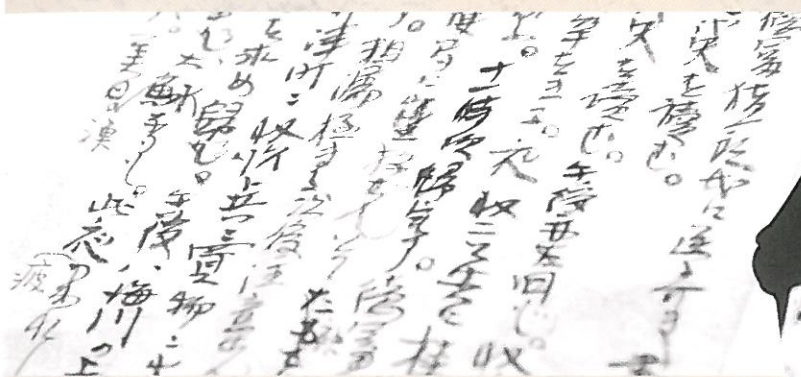


① 国木田独歩旧宅 (MAP 2-E)
独歩一家が住んでいた家。独歩の胸像や月琴が展示されている。全国的にも旧宅の存在は珍しい。



② 読書の戒 (MAP 2-D)
独歩が20歳の時、小学生の女児姉妹に本の読み方を教えた言葉。

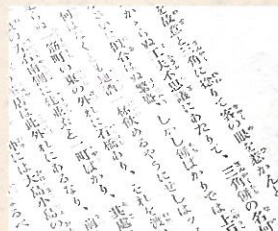
③ 国木田独歩直筆の日記 (MAP 3-B)
しらかべ学遊館には、柳井在住(明治24年頃)の独歩直筆の日記や、「独歩全集」の初版本などが展示されている。



若き日の独歩▶



④ 三角餅本舗藤坂屋 (MAP 2-G) & 「置土産」掲載の初版本
独歩が22歳頃の借家。「この餅を有名にしてやる」と後に回想して書かれた小説「置土産」には、「餅は円形(まるき)が普通(なみ)なるを、故意(わざ)と三角にひねりて…」と紹介。三角餅は全国的に有名になった。現在は休業している。



くにきた だつぽ
【国木田独歩】1871-1908
晩年の独歩▶
明治の文豪で「武蔵野」の作家。後に新聞記者、編集者として活躍し、「婦人画報」を創刊する。20歳から約4年間の青春期を柳井周辺で過ごし、独歩文学作品の揺籃(ようらん)の地となる。



文人の軌跡



たねだ さんとうか
【種田山頭火】
1882-1940

漂泊の俳人山頭火は、藤田文友宅を再々来訪。「銭湯姫田湯」へ行った後、好物の豆腐を酒肴に、旅や句作の話で語り合ったという。



いぶせ ますじ
【井伏鱒二】
1898-1993

「黒い雨」で著名な作家。関東大震災を逃れ、親友の下宿先だった「割京旅館凌波館」に半年居候。ここで出会った女子学生へ求婚し、失恋。その後が「女人来訪」に描かれている。

古の柳井で過ごした文人の想いをたどる



① 種田山頭火句碑(むろやの園) (MAP 3-D)
むろやの園の裏の俳友宅に一泊した朝、旅立つ時に詠んだ直筆の句碑。

また旅人になつて
あたらしい
タオルいらまい



りょうはかん
② 凌波館 (MAP 4-G)
「柳井のお大師山」で主人公が凌波館に投宿し、柳井時代を回想している。



【いぬいとみこ】
1924-2002

代表作に「北極のムーシカミーシカ」がある児童文学者。父の転勤で3年間柳井に居住した。「光の消えた日」は、終戦前日に光台寺から見た空襲の閃光に衝撃を受け、多くの命が失われた事件が書かれている。「川とノリオ」には柳井川と宝来橋が書かれている。



③ いぬいとみこ文学の碑 (MAP 2-A)
とみこが勤務していた旧幼稚園等の3ヶ所に「いぬいとみこ文学碑」が建立されている。



ひろつちよ
【弘津千代】
1901-1983

演劇界で活躍した柳井市出身の劇作家。柳井が舞台の小説「周防般若寺縁起」は般若姫伝説をモチーフに女子学生向けに書かれている。

しょうこうあん
④ 湘江庵 (MAP 2-D)
般若姫伝説が残る柳と井戸。



⑤ 大畠瀬戸の潮流
般若姫が嵐をおさめるため身を投じた大畠瀬戸。



ミステリー小説の舞台

作家が触発された地を歩く



【村上春樹と柳井】

ノーベル文学賞に最も近い村上春樹さんも、瀬戸内海に浮かぶ無人島に上陸! 「辺境・近境」(無人島・からす島の秘密)を執筆。個人所有のため渡れないが、海岸線からは島を眺められる。



まつもと せいちょう
【松本清張】
1909-1992

芥川賞作家

犯罪の動機を重視する作風の推理小説家。「ゼロの焦点」「砂の器」などが著名。1965年に映画化された長編推理小説「花実のない森」のクライマックスは「柳井」を舞台にしている。



● 松本清張文学碑 (MAP 3-B)
「花実のない森」の一節の碑。「珍しい町の風景だ。…」と柳井を紹介している。



うちだ やすお
【内田康夫】
1934-

旅情ミステリー作家

テレビドラマの「浅見光彦シリーズ」や「岡部警部シリーズ」が著名。白壁の町並みについて「観光客にとどては何かと都合がいい。何よりも歩く距離が短いのがいい」と書いている。



直木賞作家

「凍える牙」で直木賞作家に。女性刑事音道貴子シリーズや「いつか陽のあたる場所」などがテレビドラマ化。柳井が舞台の短編「Eメール」で倉敷の家並みと異なる、重厚で清々しい、いかにも古い商都らしい行まい」と記している。



のなみ あさ
【乃南アサ】
1960-



時代の贈り物

甘露醤油

出来上がった醤油にもう一度麹を仕込む「再仕込み製法」の甘露醤油は、天明年間(1780年代)に高田伝兵衛が創製。まろやかで濃厚なうまみが時の藩主に「甘露甘露」と称されたのが名前の由来。伝統的製法が現代にも受け継がれている。

甘露醤油資料館

醤油樽は、約140年前から使われている。



佐川醤油店 (MAP 2C)

金魚ちようちん

幕末のころ、柳井の商人が青森のねぶたをヒントに柳井の伝統織物「柳井縞」の染料を使って創始したと言われる。古くはお迎え提灯として使われていた。

8月は白壁の町並み一帯に飾られ、夏の風物詩となっている。



重枝醤油醸造場 (MAP 3-B)



白壁の町並み (MAP 3C)

柳井ゆかりの文人が生きた時代から今なおいきづくもの

翁あめ

江戸時代の創業以来、変わらない製法で5日間の工程を経て完成させる。厳選した材料だけを使い、保存料、添加物は未使用。格調高い伝統の味。



ひがしや菓子店 (MAP 3E)

柳井縞

江戸時代に素朴な木綿織物として親しまれた伝統織物。大正初期以降は幻の織物となっていたが、20年前に再現復活した。伝統の風合いはそのままに、現代風にアレンジされた手織物。



やない西蔵 (MAP 2C)
からり
加菜里 (MAP 2C)

木阪賞文堂

明治27年創業の老舗の文具屋。中に入ると創業当時の昔の看板などが所狭しと掛けてある。



木阪賞文堂 (MAP 3C)